

■松井須磨子 真摯に“新しい女”を生きて新劇女優となり、一世を風靡、共に夢を求めた島村抱月の後を追って自殺。

まついすまこ
帝国大学始・1886＝ 長野県清野村で、旧松代藩士小林藤太の末子五女に生まれる。本名小林正子。

帝国憲法発布1889＝ 3歳：

足尾鉋毒始・1891＝ 5歳：上田の親戚長谷川友助の養女となったが、

日清戦争始・1894＝ 8歳：

日清戦争終・1895＝ 9歳：

ピノ/国産化・1900＝14歳：上田尋常小学校を卒業。
田中正造直訴1901＝15歳：養父の死去により実家に戻る。実父の死にも遭ったため、
教科書疑獄・1902＝16歳：姉の嫁ぎ先を頼って上京し、寄寓、戸板裁縫女学校の速成部に学ぶ。
日比谷公園・1903＝17歳：結婚するが、
日露戦争始・1904＝18歳：道楽者の夫に性病をうつされた上、離縁される。
日露戦争終・1905＝19歳：

韓国反日暴動1907＝21歳： 演劇に関心を抱いて、荒川重秀の東京俳優学校に入り、
同校教師前沢誠助と再婚、

伊藤博文暗殺1909＝23歳： 逍遙の主宰する文芸協会演劇研究所の女優募集に応募し、第一期生として入所。

韓国併合・・・1910＝24歳： 演劇に没頭するあまり、結婚生活が破綻して離婚。

大逆事件判決1911＝25歳： *初公演の「ハムレット」のオフィーリアでみとめられ、続いて「人形の家」のノラ、

明治天皇没・1912＝26歳： 「マグダ」(「故郷」)のマグダの大役で劇団のスターとなった。

大正政変・・・1913＝27歳： *島村抱月との恋愛で協会を除名され、大学教授の座を追われた抱月と芸術座という劇団を結成。批判を浴びて財政的にも困難ななか、女座長として「モンナ・ヴァンナ」「サロメ」など毎公演の主役を演じ続けた。
第一次大戦始1914＝28歳： *劇中歌を歌うのがその演出の特色で、特に「復活」のカチューシャ(“カチューシャ可愛や”の歌)が大ヒット、朝鮮・満州までも巡業し一世を風靡。芸術座の本拠を牛込横寺町に移し、抱月と同居。
中村吉蔵の創作劇や自宅に隣接した芸術倶楽部での小公演は、芸術的な活動であった。

本格政党内閣1918＝32歳： 抱月が急逝すると、

ベルサイユ条約・1919＝33歳： *そのあとを追って、「カルメン」公演の幕が開けた日、上演後自殺した。
「死骸を抱月の墓に埋めてほしい」という遺書があったが、願いはかなえられなかった。